

諫早市林道施設長寿命化計画 (個別施設計画)

平成28年6月策定
令和8年8月改訂

諫早市 農林水産部 林務水産課

諫早市林道施設長寿命化計画(個別施設計画)

1. 基本的事項

諫早市が管理する林道橋は、35橋あり昭和14年(1939年)から平成7年(1995年)に建設されている。現時点で建設後50年を経過した橋梁は全体の60%(21橋)であるが、10年後には74%(26橋)となり、今後急速に老朽化が進むことが予想される。これらの橋梁を良好な管理の下に利用していくためには、点検などによって橋梁の現状を正確に把握し、そのデータを基にした予防的な修繕によって、橋梁の長寿命化及び橋梁の修繕・架替えにかかる費用削減が必要とされる。

これらを踏まえ、維持管理に当たっては「予防保全型維持管理」の考え方を導入し、個々の林道施設の現状を把握するとともに、これを踏まえた施設毎の維持管理・更新等の内容について整理・計画するなど必要な対策を適切に実施するものとする。

2. 対象施設

本計画における施設毎の計画期間は別紙(個票)のとおりである。

3. 計画期間

本計画における施設毎の優先度は別紙(個票)のとおりである。

4. 施設の優先度

本計画の策定に当たって実施した点検・診断により把握された(または本計画の策定時点で把握されている)施設毎の状態については別紙(個票)のとおりである。

5. 施設の状態等

上記「施設の優先度」及び「施設の状態等」を踏まえ、施設毎に講じる対策の内容及び実施の時期について別紙(個票)のとおり計画する。

6. 対策内容と実施時期

個別施設ごとの対策内容と実施時期については別紙(個票)のとおりである。なお、施設の機能に重大な影響を及ぼし得る不具合が発生した場合には、必要に応じて詳細な点検を実施した上で、補修、更新、機能強化等の必要な対策を講ずる。

7. 対策費用

個別施設ごとの対策費用等については、施設の機能に重大な影響を及ぼし得る不具合が発生した場合に、必要に応じて詳細な調査点検を実施した上で、補修、更新、機能強化等の必要な対策を講じるための費用を算出する。

個別施設計画一覧表（橋梁）

個別施設 整理番号	林道台帳 索引番号	路線名	林道種類 及び区分	橋梁名	所在地	起点から の距離	建設 年度	供用 年数	種別	型式	道路橋 示方書	橋格 (設計荷 重)	橋下 条件	橋長 (m)	幅員 (m)	上部工型式	橋台工 型式	橋脚工 型式	海岸から の距離 (km)	施設の現況			計画内容				優先 度	措置記録					備考			
																				点検実施 年月日	判定区分	所見等	計画期間	内容		実施 予定時期		対策費用 (概算: 百万円)	実施 年月日	内容		対策費用 (百万円)		再判定実施 年月日	再判定区分	
																								分類	概要(数量)					分類	概要(数量)					
1	4	赤水線	自動車道2級	四の内川橋	諫早市富川町	1.30	1980	46	コンクリート橋	コンクリート床版橋	S51	T-20	河川	3.9	5.0	RC中実床版	逆T式	—	—	R7.9.26	Ⅱ	うき・剥離・鉄筋露出・洗堀	H28～	目視点検	—	通年	—	中								
2	4	赤水線	自動車道2級	赤水橋	諫早市富川町	3.50	1973	53	PC橋	コンクリート床版橋	S46	T-14	河川	7.3	4.6	PC桁橋	重力式	—	—	R7.9.26	Ⅱ	うき・剥離・鉄筋露出	H28～	目視点検	—	通年	—	中								
3	11	坊主谷下線	自動車道2級	水無橋	諫早市富川町	1.60	1967	59	コンクリート橋	コンクリート床版橋	不明	不明	河川	6.5	4.0	RC中実床版	重力式	—	—	R7.9.26	Ⅱ	うき・剥離・鉄筋露出	H28～	目視点検	—	通年	—	中								
4	12	黒崎線	自動車道2級	黒崎橋	諫早市黒崎町	0.90	1960	66	コンクリート橋	コンクリート床版橋	S51	T-20	河川	6.4	4.0	RCT桁	重力式	—	—	R7.9.25	Ⅱ	うき・剥離・鉄筋露出	H28～	目視点検	—	通年	—	中								
5	15	湯野尾上線	自動車道2級	湯野尾2号橋	諫早市富川町	1.13	1960	66	コンクリート橋	コンクリート床版橋	不明	不明	河川	6.0	4.3	RC中実床版	重力式	—	—	R7.10.28	Ⅱ	うき・剥離・鉄筋露出・洗堀	H28～	目視点検	—	通年	—	中								
6	15	湯野尾上線	自動車道2級	湯野尾3号橋	諫早市富川町	1.38	1964	62	コンクリート橋	コンクリート床版橋	不明	不明	河川	6.0	4.3	RC中実床版	重力式	—	—	R7.10.28	Ⅱ	うき・剥離・鉄筋露出	H28～	目視点検	—	通年	—	中								
7	16	湯野尾下線	自動車道2級	湯野尾1号橋	諫早市富川町	3.60	1964	62	コンクリート橋	コンクリート床版橋	不明	不明	河川	6.0	4.3	RC中実床版	重力式	—	—	R7.10.28	Ⅱ	うき・剥離・鉄筋露出	H28～	目視点検	—	通年	—	中								
8	17	椿原線	自動車道2級	水神淵橋	諫早市白木峰町	2.90	1961	65	コンクリート橋	コンクリート床版橋	不明	不明	河川	12.5	4.0	RCT桁	重力式	—	—	R7.11.6	Ⅱ	うき・剥離・鉄筋露出	H28～	目視点検	—	通年	—	中								
9	17	椿原線	自動車道2級	椿原上橋	諫早市白木峰町	4.10	1989	37	コンクリート橋	コンクリート床版橋	S51	T-20	河川	11.5	4.1	RCT桁	重力式	—	—	R7.11.6	Ⅱ	うき・剥離・鉄筋露出・洗堀	H28～	目視点検	—	通年	—	中								
10	32	刺刀峰線	自動車道2級	刺刀峰橋	諫早市白木峰町	0.50	1984	42	PC橋	コンクリート床版橋	S51	T-20	河川	9.2	4.5	プレテン床版	重力式	—	—	R7.11.6	Ⅱ	うき・剥離・鉄筋露出	H28～	目視点検	—	通年	—	中								
11	34	多良岳横断線	自動車道1級	山犬谷橋	諫早市高来町平田	16.80	1984	42	コンクリート橋	コンクリート床版橋	S51	T-20	河川	10.5	5.8	RCT桁	重力式	—	—	R7.12.9	Ⅱ	うき・剥離・鉄筋露出・洗堀	H28～	目視点検	—	通年	—	中								
12	34	多良岳横断線	自動車道1級	水ノ手橋	諫早市富川町	1.30	1991	35	鋼橋	鋼桁橋	不明	不明	河川	11.0	6.6	I桁	重力式	—	—	R7.10.28	Ⅱ	ひびわれ・腐食	H28～	目視点検	—	通年	—	中								
13	34	多良岳横断線	自動車道1級	犬首橋	諫早市富川町	3.20	1988	38	コンクリート橋	コンクリート床版橋	S51	T-20	河川	11.6	5.8	RCT桁	重力式	—	—	R7.12.10	Ⅱ	ひびわれ・剥離・鉄筋露出	H28～	目視点検	—	通年	—	中								
14	34	多良岳横断線	自動車道1級	大平橋	諫早市湯野尾町	5.70	1988	38	鋼橋	鋼桁橋	不明	不明	河川	13.0	5.8	I桁	重力式	—	—	R7.12.10	Ⅱ	うき・剥離・鉄筋露出	H28～	目視点検	—	通年	—	中								
15	34	多良岳横断線	自動車道1級	しゃくなげ橋	諫早市白木峰町	7.80	1991	35	鋼橋	鋼桁橋	不明	不明	河川	17.0	6.1	I桁	逆T式	—	—	R7.12.9	Ⅱ	剥離・鉄筋露出	H28～	目視点検	—	通年	—	中								
16	34	多良岳横断線	自動車道1級	双合川橋	諫早市白木峰町	7.90	1993	33	鋼橋	鋼桁橋	不明	不明	河川	17.0	6.3	I桁	逆T式	—	—	R7.12.9	Ⅱ	剥離・鉄筋露出・ひびわれ	H28～	目視点検	—	通年	—	中								
17	34	多良岳横断線	自動車道1級	水源橋	諫早市高来町折山	14.70	1988	38	鋼橋	鋼桁橋	不明	不明	河川	9.0	6.3	I桁	重力式	—	—	R7.12.9	Ⅱ	うき・剥離・鉄筋露出	H28～	目視点検	—	通年	—	中								
18	48	榎堂線	自動車道2級	二又橋	諫早市高来町古場	2.50	1959	67	コンクリート橋	コンクリート床版橋	不明	不明	河川	7.5	4.5	RCT桁	重力式	—	—	R7.10.29	Ⅲ	うき・剥離・鉄筋露出・洗堀	H28～	対策工事	—	R10	13	高								
19	48	榎堂線	自動車道2級	鹿倉山橋	諫早市高来町古場	2.80	1992	34	鋼橋	鋼桁橋	不明	不明	河川	12.0	4.4	I桁	重力式	—	—	R7.10.29	Ⅱ	うき・剥離・鉄筋露出	H28～	目視点検	—	通年	—	中								
20	50	平田線	自動車道2級	毎山橋	諫早市高来町折山	1.50	1959	67	コンクリート橋	コンクリート床版橋	不明	不明	河川	21.4	5.1	RCT桁	石積	壁式	—	R7.12.16	Ⅱ	剥離・鉄筋露出・洗堀	H28～	目視点検	—	通年	—	中								
21	50	平田線	自動車道2級	羽手越橋	諫早市高来町平田	2.10	1960	66	コンクリート橋	コンクリート床版橋	不明	不明	河川	21.3	5.0	RCT桁	石積	壁式	—	R7.12.5	Ⅱ	剥離・鉄筋露出	H28～	目視点検	—	通年	—	中								
22	50	平田線	自動車道2級	1号橋	諫早市高来町折山	2.40	1939	87	コンクリート橋	コンクリート床版橋	不明	不明	河川	8.5	4.1	RCT桁	逆T式	—	—	R7.12.6	Ⅲ	剥離・鉄筋露出	H28～	目視点検	—	通年	—	高								
23	50	平田線	自動車道2級	2号橋	諫早市高来町折山	3.20	1939	87	コンクリート橋	コンクリート床版橋	不明	不明	河川	8.5	4.1	RCT桁	逆T式	—	—	R7.12.16	Ⅲ	剥離・鉄筋露出	H28～	目視点検	—	通年	—	高								
24	50	平田線	自動車道2級	3号橋	諫早市高来町折山	3.40	1960	66	コンクリート橋	コンクリート床版橋	不明	不明	河川	8.6	5.1	RCT桁	重力式	—	—	R7.12.17	Ⅲ	うき・剥離・鉄筋露出・洗堀	H28～	目視点検	—	通年	—	高								
25	50	平田線	自動車道2級	4号橋	諫早市高来町折山	3.60	1960	66	コンクリート橋	コンクリート床版橋	不明	不明	河川	7.5	4.0	RCT桁	重力式	—	—	R7.12.5	Ⅲ	うき・剥離・鉄筋露出	H28～	目視点検	—	通年	—	高								
26	50	平田線	自動車道2級	5号橋	諫早市高来町折山	3.80	1965	61	コンクリート橋	コンクリート床版橋	不明	不明	河川	9.5	4.0	RCT桁	重力式	—	—	R7.12.17	Ⅱ	うき・剥離・鉄筋露出	H28～	目視点検	—	通年	—	中								
27	52	黒新田線	自動車道2級	宇良山橋	諫早市高来町黒新田	1.70	1956	70	コンクリート橋	コンクリート床版橋	不明	不明	河川	20.0	4.9	RCT桁	重力式	壁式	—	R7.12.2	Ⅱ	剥離・鉄筋露出	H28～	目視点検	—	通年	—	中								
28	52	黒新田線	自動車道2級	雨堤橋	諫早市高来町善住寺	3.70	1959	67	コンクリート橋	コンクリート床版橋	不明	不明	河川	7.0	4.4	RCT桁	重力式	—	—	R7.9.25	Ⅱ	うき・剥離・鉄筋露出・洗堀	H28～	目視点検	—	通年	—	中								
29	57	炊小屋線	自動車道2級	1号床版橋	諫早市高来町善住寺	2.10	1961	65	コンクリート橋	コンクリート床版橋	不明	不明	河川	4.3	4.8	RC中実床版	重力式	—	—	R7.9.25	Ⅱ	うき・剥離・鉄筋露出	H28～	目視点検	—	通年	—	中								
30	57	炊小屋線	自動車道2級	2号床版橋	諫早市高来町善住寺	2.80	1986	40	コンクリート橋	コンクリート床版橋	S.51	T-20	河川	5.4	4.8	RC中実床版	重力式	—	—	R7.9.25	Ⅱ	うき・剥離・鉄筋露出	H28～	目視点検	—	通年	—	中								
31	58	丸尾線	自動車道2級	丸尾1号橋	諫早市高来町善住寺	1.00	1965	61	コンクリート橋	コンクリート床版橋	不明	不明	河川	2.7	3.9	RC中実床版	石積	—	—	R7.9.25	Ⅱ	うき・剥離・鉄筋露出	H28～	目視点検	—	通年	—	中								
32	61	西黒新田線	自動車道2級	西黒新田橋	諫早市高来町黒新田	0.60	1978	48	コンクリート橋	コンクリート床版橋	S51	T-20	河川	6.1	4.0	RC中実床版	逆T式	—	—	R7.9.25	Ⅱ	うき・剥離・鉄筋露出	H28～	目視点検	—	通年	—	中								
33	63	砥石川線	自動車道2級	1号床版橋	諫早市高来町平田	5.70	1995	31	コンクリート橋	コンクリート床版橋	不明	不明	河川	8.2	3.9	RCT桁	重力式	—	—	R7.10.29	Ⅱ	うき・剥離・鉄筋露出	H28～	目視点検	—	通年	—	中								
34	63	砥石川線	自動車道2級	2号床版橋	諫早市高来町平田	5.90	1962	64	コンクリート橋	コンクリート床版橋	不明	不明	河川	7.5	4.0	RCT桁	重力式	—	—	R7.10.29	Ⅱ	ひびわれ・うき・剥離・鉄筋露出	H28～	目視点検	—	通年	—	中								
35	66	鳥越線	自動車道2級	深谷橋	諫早市小長井町川内	2.20	1968	58	コンクリート橋	コンクリート床版橋	不明	不明	河川	9.9	4.1	RCT桁	逆T式	—	—	R7.9.26	Ⅱ	うき・剥離・鉄筋露出	H28～	目視点検	—	通年	—	中								

個別施設整理番号	1	林道台帳索引番号番号	4	施設管理者	諫早市
路線名	赤水線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	四の内川橋
施設の所在地	諫早市富川町	起点からの距離	1.3km	建設年度	1980
供用年数	46	種別	コンクリート橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	S51	橋格(設計荷重)	T-20	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	3.9m		幅員(車道幅員)	5.0m (5.0m)
	施設の構造等	上部工型式	RC中実床版			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	—	落橋防止の有無	無	
		橋台工型式	逆T式		基礎形式	不明
	橋脚工型式	—		海岸からの距離	—	
施設の目的利用実態等	林道赤水線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。また、当該林道は生活道としての機能も有しており、地域住民の利用もみられる。					
施設の状態等の概要	点検診断日	令和7年9月26日				
	調査結果	上部工(主構)及び下部工(躯体)に局所的な剥離・鉄筋露出が確認された。 躯体両方の上流側に洗堀が確認された。 予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。			
	劣化原因	経年劣化による。				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成28年度～				
	内容	林道パトロール時において目視点検を行う。				
	実施予定時期	予防保全の観点から措置を講ずることが望ましいが、当面の間は年間を通した林道パトロール時による目視点検を実施する。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 診断結果により、優先度は「中」とした。			
	対策費用(概算)	—				
管理方法	管理方法	長寿命化対策として、年間を通した林道パトロール時による目視点検を行う。 また、林道の清掃等維持作業を適切に行う。				

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用 (百万円)										
対策の内容・実施時期	点検診断	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	点検診断	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検

備 考

個別施設整理番号	2	林道台帳索引番号番号	4	施設管理者	諫早市
路線名	赤水線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	赤水橋
施設の所在地	諫早市富川町	起点からの距離	3.5km	建設年度	1973
供用年数	53	種別	PC橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	S46	橋格(設計荷重)	T-14	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	7.3m		幅員(車道幅員)	4.6m (4.6m)
	施設の構造等	上部工型式	PC桁橋			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
			支承形式	—	落橋防止の有無	有
		橋台工型式	重力式		基礎形式	不明
		橋脚工型式	—		海岸からの距離	—
施設の目的利用実態等	林道赤水線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。また、当該林道は生活道としての機能も有しており、地域住民の利用もみられる。					
施設の状態等の概要	点検診断日	令和7年9月26日				
	調査結果	主桁に局所的に剥離・鉄筋露出及び主桁間の間詰部に漏水・遊離石灰が確認された。前回点検から進行は認められないため、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。			
	劣化原因	経年劣化による。				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成28年度～				
	内容	林道パトロール時において目視点検を行う。				
	実施予定時期	予防保全の観点から、当面の間は年間を通した林道パトロール時による目視点検を実施する。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 診断結果により、優先度は「中」とした。			
	対策費用(概算)	—				
管理方法	管理方法	長寿命化対策として、年間を通した林道パトロール時による目視点検を行う。 また、林道の清掃等維持作業を適切に行う。				

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用 (百万円)										
対策の内容・実施時期	点検診断	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	点検診断	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検

備 考

個別施設整理番号	3	林道台帳索引番号番号	11	施設管理者	諫早市
路線名	坊主谷下線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	水無橋
施設の所在地	諫早市富川町	起点からの距離	1.6km	建設年度	1967
供用年数	59	種別	コンクリート橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	不明	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	6.5m		幅員(車道幅員)	4.0m (4.0m)
	施設の構造等	上部工型式	RC中実床版			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	—	落橋防止の有無	有	
		橋台工型式	重力式		基礎形式	不明
	橋脚工型式	—		海岸からの距離	—	
施設の目的利用実態等	林道坊主谷下線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。					
施設の状態等の概要	点検診断日	令和7年9月26日				
	調査結果	橋面に土砂、落石の堆積が確認された。 舗装の走行は可能であり、構造物の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。			
	劣化原因	経年劣化による。				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成28年度～				
	内容	林道パトロール時において目視点検を行う。				
	実施予定時期	予防保全の観点から、当面の間は年間を通した林道パトロール時による目視点検を実施する。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 診断結果により、優先度は「中」とした。			
	対策費用(概算)	—				
管理方法	管理方法	長寿命化対策として、年間を通した林道パトロール時による目視点検を行う。 また、林道の清掃等維持作業を適切に行う。				

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用 (百万円)										
対策の内容・実施時期	点検診断	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	点検診断	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検

備 考

個別施設整理番号	4	林道台帳索引番号番号	12	施設管理者	諫早市
路線名	黒崎線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	黒崎橋
施設の所在地	諫早市黒崎町	起点からの距離	0.9km	建設年度	1960
供用年数	66	種別	コンクリート橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	S51	橋格(設計荷重)	T-20	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	6.4m		幅員(車道幅員)	4.0m (4.0m)
	施設の構造等	上部工型式	RCT桁			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	—	落橋防止の有無	無	
		橋台工型式	重力式		基礎形式	不明
	橋脚工型式	—		海岸からの距離	—	
施設の目的利用実態等	林道黒崎線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。					
施設の状態等の概要	点検診断日	令和7年9月25日				
	調査結果	主桁の一部に著しい鉄筋露出が確認されたが、損傷の進行は見られなかった。 道路橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。			
	劣化原因	経年劣化による。				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成28年度～				
	内容	林道パトロール時において目視点検を行う。				
	実施予定時期	予防保全の観点から、当面の間は年間を通した林道パトロール時による目視点検を実施する。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 診断結果により、優先度は「中」とした。			
	対策費用(概算)	—				
管理方法	管理方法	長寿命化対策として、年間を通した林道パトロール時による目視点検を行う。 また、林道の清掃等維持作業を適切に行う。				

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用 (百万円)										
対策の内容・実施時期	点検診断	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	点検診断	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検

備 考

個別施設整理番号	5	林道台帳索引番号番号	15	施設管理者	諫早市
路線名	湯野尾上線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	湯野尾2号橋
施設の所在地	諫早市富川町	起点からの距離	1.1km	建設年度	1960
供用年数	66	種別	コンクリート橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	不明	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	6.0m		幅員(車道幅員)	4.3m (4.3m)
	施設の構造等	上部工型式	RC中実床版			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	—	落橋防止の有無	無	
		橋台工型式	重力式		基礎形式	不明
	橋脚工型式	—		海岸からの距離	—	
施設の目的利用実態等	林道湯野尾上線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。					
施設の状態等の概要	点検診断日	令和7年10月28日				
	調査結果	中実床版下面に局所的な剥離・鉄筋露出、A1橋台では洗堀が確認された。予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。			
	劣化原因	経年劣化による。				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成28年度～				
	内容	林道パトロール時において目視点検を行う。				
	実施予定時期	予防保全の観点から、当面の間は年間を通した林道パトロール時による目視点検を実施する。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 診断結果により、優先度は「中」とした。			
	対策費用(概算)	—				
管理方法	管理方法	長寿命化対策として、年間を通した林道パトロール時による目視点検を行う。 また、林道の清掃等維持作業を適切に行う。				

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用 (百万円)										
対策の内容・実施時期	点検診断	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	点検診断	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検

備 考

個別施設整理番号	6	林道台帳索引番号番号	15	施設管理者	諫早市
路線名	湯野尾上線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	湯野尾3号橋
施設の所在地	諫早市富川町	起点からの距離	1.4km	建設年度	1964
供用年数	62	種別	コンクリート橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	不明	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	6.0m		幅員(車道幅員)	4.3m (4.3m)
	施設の構造等	上部工型式	RC中実床版			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	—	落橋防止の有無	無	
		橋台工型式	重力式		基礎形式	不明
	橋脚工型式	—		海岸からの距離	—	
施設の目的利用実態等	林道湯野尾上線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。					
施設の状態等の概要	点検診断日	令和7年10月28日				
	調査結果	中実床版下面にうき及び鉄筋露出や遊離石灰の滲出が確認され、路上部では地覆や舗装に骨材の露出が確認された。予防保全の観点から措置を講じることが望ましい。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。			
	劣化原因	経年劣化による。				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成28年度～				
	内容	林道パトロール時において目視点検を行う。				
	実施予定時期	予防保全の観点から、当面の間は年間を通した林道パトロール時による目視点検を実施する。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 診断結果により、優先度は「中」とした。			
	対策費用(概算)	—				
管理方法	長寿命化対策として、年間を通した林道パトロール時による目視点検を行う。 また、林道の清掃等維持作業を適切に行う。					

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用 (百万円)										
対策の内容・実施時期	点検診断	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	点検診断	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検

備 考

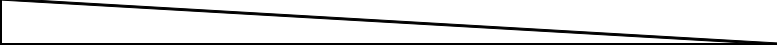
個別施設整理番号	7	林道台帳索引番号番号	16	施設管理者	諫早市
路線名	湯野尾下線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	湯野尾1号橋
施設の所在地	諫早市富川町	起点からの距離	3.6km	建設年度	1964
供用年数	62	種別	コンクリート橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	不明	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	6.0m		幅員(車道幅員)	4.3m (4.3m)
	施設の構造等	上部工型式	RC中実床版			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	—	落橋防止の有無	無	
		橋台工型式	重力式		基礎形式	不明
	橋脚工型式	—		海岸からの距離	—	
施設の目的利用実態等	林道湯野尾下線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。					
施設の状態等の概要	点検診断日	令和7年10月28日				
	調査結果	主構にかぶり不足による、剥離・鉄筋露出が確認され、前回点検から進行が認められた。現時点で道路橋の機能に支障は生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。			
	劣化原因	経年劣化による。				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成28年度～				
	内容	林道パトロール時において目視点検を行う。				
	実施予定時期	予防保全の観点から、当面の間は年間を通した林道パトロール時による目視点検を実施する。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 診断結果により、優先度は「中」とした。			
	対策費用(概算)	—				
管理方法	長寿命化対策として、年間を通した林道パトロール時による目視点検を行う。 また、林道の清掃等維持作業を適切に行う。					

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用 (百万円)										
対策の内容・実施時期	点検診断	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	点検診断	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検

備 考

個別施設整理番号	8	林道台帳索引番号番号	17	施設管理者	諫早市
路線名	椿原線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	水神湊橋
施設の所在地	諫早市白木峰町	起点からの距離	2.9km	建設年度	1961
供用年数	65	種別	コンクリート橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	不明	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	12.5m		幅員(車道幅員)	4.0m (4.0m)
	施設の構造等	上部工型式	RCT桁			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	—	落橋防止の有無	有	
		橋台工型式	重力式		基礎形式	不明
	橋脚工型式	—		海岸からの距離	—	
施設の目的利用実態等	林道椿原線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。					
施設の状態等の概要	点検診断日	令和7年11月6日				
	調査結果	主桁および床版の広範囲で剥離・鉄筋露出が確認された。前回点検と比較して、床版の剥離・鉄筋露出の進行が確認された。 道路橋の機能に支障は生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。			
	劣化原因	経年劣化による。				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成28年度～				
	内容	林道パトロール時において目視点検を行う。				
	実施予定時期	予防保全の観点から、当面の間は年間を通した林道パトロール時による目視点検を実施する。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 診断結果により、優先度は「低」とした。			
	対策費用(概算)	—				
管理方法	長寿命化対策として、年間を通した林道パトロール時による目視点検を行う。 また、林道の清掃等維持作業を適切に行う。					

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用 (百万円)										
対策の内容・実施時期	点検診断	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	点検診断	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検

備 考

個別施設整理番号	9	林道台帳索引番号番号	17	施設管理者	諫早市
路線名	椿原線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	椿原上橋
施設の所在地	諫早市白木峰町	起点からの距離	4.1km	建設年度	1989
供用年数	37	種別	コンクリート橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	S51	橋格(設計荷重)	T-20	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	11.5m		幅員(車道幅員)	4.1m (4.1m)
	施設の構造等	上部工型式	RCT桁			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	—	落橋防止の有無	有	
		橋台工型式	重力式		基礎形式	不明
	橋脚工型式	—		海岸からの距離	—	
施設の目的利用実態等	林道椿原線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。					
施設の状態等の概要	点検診断日	令和7年11月6日				
	調査結果	主桁の剥離・鉄筋露出ではかぶり不足が認められ、前回点検時と比較して損傷の進行が確認された。道路橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。			
	劣化原因	経年劣化による。				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成28年度～				
	内容	林道パトロール時において目視点検を行う。				
	実施予定時期	予防保全の観点から、当面の間は年間を通した林道パトロール時による目視点検を実施する。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 診断結果により、優先度は「中」とした。			
	対策費用(概算)	—				
管理方法	管理方法	長寿命化対策として、年間を通した林道パトロール時による目視点検を行う。 また、林道の清掃等維持作業を適切に行う。				

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用 (百万円)										
対策の内容・実施時期	点検診断	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	点検診断	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検

備 考

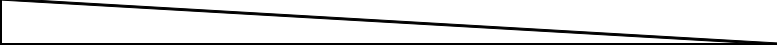
個別施設整理番号	10	林道台帳索引番号番号	32	施設管理者	諫早市
路線名	刺刀峰線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	刺刀峰橋
施設の所在地	諫早市白木峰町	起点からの距離	0.5km	建設年度	1984
供用年数	42	種別	PC橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	S51	橋格(設計荷重)	T-20	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	9.2m		幅員(車道幅員)	4.5m (4.5m)
	施設の構造等	上部工型式	プレテン床版			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	—	落橋防止の有無	有	
		橋台工型式	重力式		基礎形式	不明
	橋脚工型式	—		海岸からの距離	—	
施設の目的利用実態等	林道刺刀峰線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。					
施設の状態等の概要	点検診断日	令和7年11月6日				
	調査結果	主桁間の間詰め部に漏水・遊離石灰が確認された。 前回点検から進行は認められないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。			
	劣化原因	経年劣化による。				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成28年度～				
	内容	林道パトロール時において目視点検を行う。				
	実施予定時期	予防保全の観点から、当面の間は年間を通した林道パトロール時による目視点検を実施する。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 診断結果により、優先度は「中」とした。			
	対策費用(概算)	—				
管理方法	管理方法	長寿命化対策として、年間を通した林道パトロール時による目視点検を行う。 また、林道の清掃等維持作業を適切に行う。				

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用 (百万円)										
対策の内容・実施時期	点検診断	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	点検診断	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検

備 考

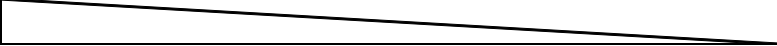
個別施設整理番号	11	林道台帳索引番号番号	34	施設管理者	諫早市
路線名	多良岳横断線	林道種類及び区分	自動車道1級	橋梁名	山犬谷橋
施設の所在地	諫早市高来町平田	起点からの距離	16.8km	建設年度	1984
供用年数	42	種別	コンクリート橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	S51	橋格(設計荷重)	T-20	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	10.5m		幅員(車道幅員)	5.8m (5.8m)
	施設の構造等	上部工型式	RCT桁			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	—	落橋防止の有無	有	
		橋台工型式	重力式		基礎形式	不明
	橋脚工型式	—		海岸からの距離	—	
施設の目的利用実態等	林道多良岳横断線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。また、当該林道は生活道としての機能も有しており、地域住民の利用もみられる。					
施設の状態等の概要	点検診断日	令和7年12月9日				
	調査結果	A2橋台に洗堀(D=0.95m)が確認された。また、舗装に全面的なうきや欠損が見られ、損傷範囲の拡大が認められた。 道路橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。			
	劣化原因	経年劣化による。				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成28年度～				
	内容	林道パトロール時において目視点検を行う。				
	実施予定時期	予防保全の観点から、当面の間は年間を通した林道パトロール時による目視点検を実施する。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 診断結果により、優先度は「中」とした。			
	対策費用(概算)	—				
管理方法	管理方法	長寿命化対策として、年間を通した林道パトロール時による目視点検を行う。 また、林道の清掃等維持作業を適切に行う。				

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用 (百万円)										
対策の内容・実施時期	点検診断	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	点検診断	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検

備 考

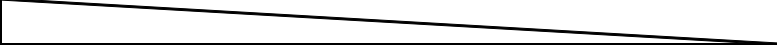
個別施設整理番号	12	林道台帳索引番号番号	34	施設管理者	諫早市
路線名	多良岳横断線	林道種類及び区分	自動車道1級	橋梁名	水ノ手橋
施設の所在地	諫早市富川町	起点からの距離	1.3km	建設年度	1991
供用年数	35	種別	鋼橋	型式	鋼桁橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	不明	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	11.0m		幅員(車道幅員)	6.6m (6.6m)
	施設の構造等	上部工型式	I桁			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	—	落橋防止の有無	有	
		橋台工型式	重力式		基礎形式	不明
	橋脚工型式	—		海岸からの距離	—	
施設の目的利用実態等	林道多良岳横断線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。また、当該林道は生活道としての機能も有しており、地域住民の利用もみられる。					
施設の状態等の概要	点検診断日	令和7年10月28日				
	調査結果	上部工(主構)全面に軽度の錆が確認されたが、鋼材は耐候性鋼と推測できるため健全錆と思われる。また、支承部に軽度な腐食が確認された。前回点検から進行は認められないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。			
	劣化原因	経年劣化による。				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成28年度～				
	内容	林道パトロール時において目視点検を行う。				
	実施予定時期	予防保全の観点から、当面の間は年間を通した林道パトロール時による目視点検を実施する。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 診断結果により、優先度は「中」とした。			
	対策費用(概算)	—				
管理方法	管理方法	長寿命化対策として、年間を通した林道パトロール時による目視点検を行う。 また、林道の清掃等維持作業を適切に行う。				

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用 (百万円)										
対策の内容・実施時期	点検診断	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	点検診断	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検

備 考

個別施設整理番号	13	林道台帳索引番号番号	34	施設管理者	諫早市
路線名	多良岳横断線	林道種類及び区分	自動車道1級	橋梁名	犬首橋
施設の所在地	諫早市富川町	起点からの距離	3.2km	建設年度	1988
供用年数	38	種別	コンクリート橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	S51	橋格(設計荷重)	T-20	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	11.6m		幅員(車道幅員)	5.8m (5.8m)
	施設の構造等	上部工型式	RCT桁			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	—	落橋防止の有無	有	
		橋台工型式	重力式		基礎形式	不明
	橋脚工型式	—		海岸からの距離	—	
施設の目的利用実態等	林道多良岳横断線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。また、当該林道は生活道としての機能も有しており、地域住民の利用もみられる。					
施設の状態等の概要	点検診断日	令和7年12月10日				
	調査結果	主桁側面に主桁下面から鉛直方向に規則的なひびわれ(W=0.2~0.3mm)が確認された。乾燥収縮(初期ひびわれ)により生じているものと考えられる。道路橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。			
	劣化原因	経年劣化による。				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成28年度～				
	内容	林道パトロール時において目視点検を行う。				
	実施予定時期	予防保全の観点から、当面の間は年間を通した林道パトロール時による目視点検を実施する。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 診断結果により、優先度は「中」とした。			
	対策費用(概算)	—				
管理方法	管理方法	長寿命化対策として、年間を通した林道パトロール時による目視点検を行う。 また、林道の清掃等維持作業を適切に行う。				

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用 (百万円)										
対策の内容・実施時期	点検診断	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	点検診断	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検

備 考

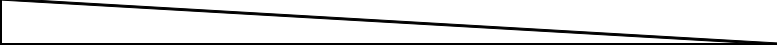
個別施設整理番号	14	林道台帳索引番号番号	34	施設管理者	諫早市
路線名	多良岳横断線	林道種類及び区分	自動車道1級	橋梁名	大平橋
施設の所在地	諫早市湯野尾町	起点からの距離	5.7km	建設年度	1988
供用年数	38	種別	鋼橋	型式	鋼桁橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	不明	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	13.0m		幅員(車道幅員)	5.8m (5.8m)
	施設の構造等	上部工型式	I桁			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
			支承形式	—	落橋防止の有無	有
		橋台工型式	重力式		基礎形式	不明
		橋脚工型式	—		海岸からの距離	—
施設の目的利用実態等	林道多良岳横断線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。また、当該林道は生活道としての機能も有しており、地域住民の利用もみられる。					
施設の状態等の概要	点検診断日	令和7年12月10日				
	調査結果	主桁の鋼材は耐侯性鋼と推測でき、健全錆と思われる。 路上部では、舗装にひびわれが発生している。進展した場合、路面の凹凸を生じ、通行車両に影響を及ぼすおそれがあるため、適切な時期に対策を実施することが望ましい。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。			
	劣化原因	経年劣化による。				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成28年度～				
	内容	林道パトロール時において目視点検を行う。				
	実施予定時期	予防保全の観点から、当面の間は年間を通した林道パトロール時による目視点検を実施する。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 診断結果により、優先度は「中」とした。			
	対策費用(概算)	—				
管理方法	管理方法	長寿命化対策として、年間を通した林道パトロール時による目視点検を行う。 また、林道の清掃等維持作業を適切に行う。				

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用 (百万円)										
対策の内容・実施時期	点検診断	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	点検診断	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検

備 考

個別施設整理番号	15	林道台帳索引番号番号	34	施設管理者	諫早市
路線名	多良岳横断線	林道種類及び区分	自動車道1級	橋梁名	しゃくなげ橋
施設の所在地	諫早市白木峰町	起点からの距離	7.8km	建設年度	1991
供用年数	35	種別	鋼橋	型式	鋼桁橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	不明	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	17.0m		幅員(車道幅員)	6.1m (6.1m)
	施設の構造等	上部工型式	I桁			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	—	落橋防止の有無	有	
		橋台工型式	逆T式		基礎形式	不明
	橋脚工型式	—		海岸からの距離	—	
施設の目的利用実態等	林道多良岳横断線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。また、当該林道は生活道としての機能も有しており、地域住民の利用もみられる。					
施設の状態等の概要	点検診断日	令和7年12月9日				
	調査結果	上部工(主構)全面に軽度の錆が確認されたが、鋼材は耐候性鋼と推測できるため健全錆と考えられる。また、橋台背面の段差には進行が認められるため、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。			
	劣化原因	経年劣化による。				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成28年度～				
	内容	林道パトロール時において目視点検を行う。				
	実施予定時期	予防保全の観点から、当面の間は年間を通した林道パトロール時による目視点検を実施する。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 診断結果により、優先度は「中」とした。			
	対策費用(概算)	—				
管理方法	長寿命化対策として、年間を通した林道パトロール時による目視点検を行う。 また、林道の清掃等維持作業を適切に行う。					

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用 (百万円)										
対策の内容・実施時期	点検診断	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	点検診断	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検

備 考

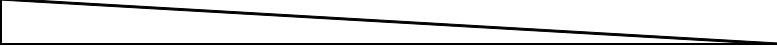
個別施設整理番号	16	林道台帳索引番号番号	34	施設管理者	諫早市
路線名	多良岳横断線	林道種類及び区分	自動車道1級	橋梁名	双合川橋
施設の所在地	諫早市白木峰町	起点からの距離	7.9km	建設年度	1993
供用年数	33	種別	鋼橋	型式	鋼桁橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	不明	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	17.0m		幅員(車道幅員)	6.3m (6.3m)
	施設の構造等	上部工型式	I桁			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	—	落橋防止の有無	有	
		橋台工型式	逆T式		基礎形式	不明
	橋脚工型式	—		海岸からの距離	—	
施設の目的利用実態等	林道多良岳横断線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。また、当該林道は生活道としての機能も有しており、地域住民の利用もみられる。					
施設の状態等の概要	点検診断日	令和7年12月9日				
	調査結果	上部工は、耐候性鋼材を用いたI桁橋となっており、概ね安定錆の状態である。一方、路上部では橋台背面の舗装に段差が生じており、予防保全の観点から舗装の段差修正等の対策を講じることが望ましい。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。			
	劣化原因	老朽化によるコンクリート剥離が考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成28年度～				
	内容	林道パトロール時において目視点検を行う。				
	実施予定時期	予防保全の観点から、当面の間は年間を通した林道パトロール時による目視点検を実施する。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 診断結果により、優先度は「中」とした。			
	対策費用(概算)	経年劣化による。				
管理方法	管理方法	長寿命化対策として、年間を通した林道パトロール時による目視点検を行う。 また、林道の清掃等維持作業を適切に行う。				

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用 (百万円)										
対策の内容・実施時期	点検診断	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	点検診断	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検

備 考

個別施設整理番号	17	林道台帳索引番号番号	34	施設管理者	諫早市
路線名	多良岳横断線	林道種類及び区分	自動車道1級	橋梁名	水源橋
施設の所在地	諫早市高来町折山	起点からの距離	14.7km	建設年度	1988
供用年数	38	種別	鋼橋	型式	鋼桁橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	不明	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	9.0m		幅員(車道幅員)	6.3m (6.3m)
	施設の構造等	上部工型式	I桁			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	—	落橋防止の有無	有	
		橋台工型式	重力式		基礎形式	不明
	橋脚工型式	—		海岸からの距離	—	
施設の目的利用実態等	林道多良岳横断線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。また、当該林道は生活道としての機能も有しており、地域住民の利用もみられる。					
施設の状態等の概要	点検診断日	令和7年12月9日				
	調査結果	上部工(主構)全面に軽度の錆が確認されたが、鋼材は耐候性鋼と推測できるため健全錆と思われる。また、支承部に軽度な腐食が確認された。道路橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。			
	劣化原因	経年劣化による。				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成28年度～				
	内容	林道パトロール時において目視点検を行う。				
	実施予定時期	予防保全の観点から、当面の間は年間を通した林道パトロール時による目視点検を実施する。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 診断結果により、優先度は「中」とした。			
	対策費用(概算)	—				
管理方法	管理方法	長寿命化対策として、年間を通した林道パトロール時による目視点検を行う。 また、林道の清掃等維持作業を適切に行う。				

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用 (百万円)										
対策の内容・実施時期	点検診断	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	点検診断	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検

備 考

個別施設整理番号	18	林道台帳索引番号番号	48	施設管理者	諫早市
路線名	榎堂線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	二又橋
施設の所在地	諫早市高来町古場	起点からの距離	2.5km	建設年度	1959
供用年数	67	種別	コンクリート橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	不明	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	7.5m		幅員(車道幅員)	4.5m (4.5m)
	施設の構造等	上部工型式	RCT桁			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	—	落橋防止の有無	有	
		橋台工型式	重力式		基礎形式	不明
	橋脚工型式	—		海岸からの距離	—	
施設の目的利用実態等	林道榎堂線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。					
施設の状態等の概要	点検診断日	令和7年10月29日				
	調査結果	主桁に剥離・鉄筋露出が見られ、前回点検時と比較して損傷範囲の拡大が確認された。道路橋の機能に支障が生じる可能性があるため、早期の措置が望ましい。				
	健全性の診断結果	Ⅲ (早期措置段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。			
	劣化原因	経年劣化による。				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成28年度～				
	内容	林道パトロール時において目視点検を行う。 また、下記スケジュールにて調査設計、対策工事を計画する。				
	実施予定時期	下記のとおり				
	施設の優先度	高	(優先度の考え方) 診断結果により、優先度は「高」とした。			
	対策費用(概算)	13,000,000円				
管理方法	管理方法	対策工事後についても年間を通した林道パトロール時による目視点検を行う。 また、林道の清掃等維持作業を適切に行う。				

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用 (百万円)								3	10	
対策の内容・実施時期	点検診断	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	点検診断	目視点検	調査設計	対策工事	目視点検

備 考

個別施設整理番号	19	林道台帳索引番号番号	48	施設管理者	諫早市
路線名	榎堂線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	鹿倉山橋
施設の所在地	諫早市高来町古場	起点からの距離	2.8km	建設年度	1992
供用年数	34	種別	鋼橋	型式	鋼桁橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	不明	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	12.0m		幅員(車道幅員)	4.4m (4.4m)
	施設の構造等	上部工型式	I桁			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	—	落橋防止の有無	有	
		橋台工型式	重力式		基礎形式	不明
	橋脚工型式	—		海岸からの距離	—	
施設の目的利用実態等	林道榎堂線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。					
施設の状態等の概要	点検診断日	令和7年10月29日				
	調査結果	上部工(主構)全面に軽度の錆が確認されたが、鋼材は耐候性鋼と推測できるため健全錆と思われる。また、倒木により防護柵が変形している。道路橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。			
	劣化原因	経年劣化による。				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成28年度～				
	内容	林道パトロール時において目視点検を行う。				
	実施予定時期	予防保全の観点から、当面の間は年間を通した林道パトロール時による目視点検を実施する。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 診断結果により、優先度は「中」とした。			
	対策費用(概算)	—				
管理方法	管理方法	長寿命化対策として、年間を通した林道パトロール時による目視点検を行う。 また、林道の清掃等維持作業を適切に行う。				

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用 (百万円)										
対策の内容・実施時期	点検診断	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	点検診断	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検

備 考

個別施設整理番号	20	林道台帳索引番号番号	50	施設管理者	諫早市
路線名	平田線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	毎山橋
施設の所在地	諫早市高来町折山	起点からの距離	1.5km	建設年度	1959
供用年数	67	種別	コンクリート橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	不明	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	21.4m		幅員(車道幅員)	5.1m (5.1m)
	施設の構造等	上部工型式	RCT桁			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	—	落橋防止の有無	有	
		橋台工型式	石積		基礎形式	不明
	橋脚工型式	壁式		海岸からの距離	—	
施設の目的利用実態等	林道平田線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。					
施設の状態等の概要	点検診断日	令和7年12月16日				
	調査結果	床版(0201)の一部で剥離・鉄筋露出が生じており、損傷の進行が見られた。前回点検よりも僅かに進行が認められるため、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。			
	劣化原因	経年劣化による。				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成28年度～				
	内容	林道パトロール時において目視点検を行う。				
	実施予定時期	予防保全の観点から、当面の間は年間を通した林道パトロール時による目視点検を実施する。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 診断結果により、優先度は「中」とした。			
	対策費用(概算)	—				
管理方法	管理方法	長寿命化対策として、年間を通した林道パトロール時による目視点検を行う。また、林道の清掃等維持作業を適切に行う。				

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用 (百万円)										
対策の内容・実施時期	点検診断	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	点検診断	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検

備 考

個別施設整理番号	21	林道台帳索引番号番号	50	施設管理者	諫早市
路線名	平田線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	羽手越橋
施設の所在地	諫早市高来町平田	起点からの距離	2.1km	建設年度	1960
供用年数	66	種別	コンクリート橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	不明	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	21.3m		幅員(車道幅員)	5.0m (5.0m)
	施設の構造等	上部工型式	RCT桁			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	—	落橋防止の有無	有	
		橋台工型式	石積		基礎形式	壁式橋脚
	橋脚工型式	壁式		海岸からの距離	—	
施設の目的利用実態等	林道平田線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。					
施設の状態等の概要	点検診断日	令和7年12月5日				
	調査結果	主桁下面の広範囲に軽微な剥離・鉄筋露出が点在しており、損傷の進行が認められる。道路橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。			
	劣化原因	経年劣化による。				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成28年度～				
	内容	林道パトロール時において目視点検を行う。				
	実施予定時期	予防保全の観点から、当面の間は年間を通した林道パトロール時による目視点検を実施する。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 診断結果により、優先度は「中」とした。			
	対策費用(概算)	—				
管理方法	管理方法	長寿命化対策として、年間を通した林道パトロール時による目視点検を行う。 また、林道の清掃等維持作業を適切に行う。				

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用 (百万円)										
対策の内容・実施時期	点検診断	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	点検診断	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検

備 考

個別施設整理番号	22	林道台帳索引番号番号	50	施設管理者	諫早市
路線名	平田線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	1号橋
施設の所在地	諫早市高来町折山	起点からの距離	2.4km	建設年度	1939
供用年数	87	種別	コンクリート橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	不明	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	8.5m		幅員(車道幅員)	4.1m (4.1m)	
	施設の構造等	上部工型式	RCT桁				
			鋼製(使用鋼材)	—		塗装使用の有無	—
		支承形式	—		落橋防止の有無	無	
		橋台工型式	逆T式		基礎形式	不明	
	橋脚工型式	—		海岸からの距離	—		
施設の目的利用実態等	林道平田線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。						
施設の状態等の概要	点検診断日	令和7年12月6日					
	調査結果	主桁において、前回点検時と比較し損傷の進行が多数確認された。 道路橋の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずることが望ましい。					
	健全性の診断結果	Ⅲ (早期措置段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。				
	劣化原因	経年劣化による。					
長寿命化計画の内容	計画期間	平成28年度～					
	内容	林道パトロール時において目視点検を行う。 (当該林道はの終点は行き止まり線形であり、比較的地域住民の進入は少なく、橋梁の機能にも支障は生じていないため、当面の間目視点検による経過観察を行うこととする。)					
	実施予定時期	予防保全の観点から、当面の間は年間を通した林道パトロール時による目視点検を実施する。					
	施設の優先度	高	(優先度の考え方) 診断結果により、優先度は「高」とした。				
	対策費用(概算)	—					
管理方法	管理方法	長寿命化対策として、年間を通した林道パトロール時による目視点検を行う。 また、林道の清掃等維持作業を適切に行う。					

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用 (百万円)										
対策の内容・実施時期	点検診断	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	点検診断	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検

備 考

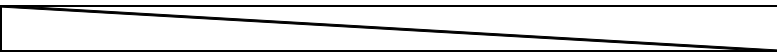
個別施設整理番号	23	林道台帳索引番号番号	50	施設管理者	諫早市
路線名	平田線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	2号橋
施設の所在地	諫早市高来町折山	起点からの距離	3.2km	建設年度	1939
供用年数	87	種別	コンクリート橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	不明	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	8.5m		幅員(車道幅員)	4.1m (4.1m)
	施設の構造等	上部工型式	RCT桁			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	—	落橋防止の有無	有	
		橋台工型式	逆T式		基礎形式	不明
	橋脚工型式	—		海岸からの距離	—	
施設の目的利用実態等	林道平田線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。					
施設の状態等の概要	点検診断日	令和7年12月16日				
	調査結果	主桁下面全体に鉄筋露出・うきが確認された。 前回点検と比較して大きな進展は認められないが、道路橋の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずることが望ましい。				
	健全性の診断結果	Ⅲ (早期措置段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。			
	劣化原因	経年劣化による。				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成28年度～				
	内容	林道パトロール時において目視点検を行う。 (当該林道はの終点は行き止まり線形であり、比較的地域住民の進入は少なく、橋梁の機能にも支障は生じていないため、当面の間目視点検による経過観察を行うこととする。)				
	実施予定時期	予防保全の観点から、当面の間は年間を通した林道パトロール時による目視点検を実施する。				
	施設の優先度	高	(優先度の考え方) 診断結果により、優先度は「高」とした。			
	対策費用(概算)	—				
管理方法	管理方法	長寿命化対策として、年間を通した林道パトロール時による目視点検を行う。 また、林道の清掃等維持作業を適切に行う。				

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用 (百万円)										
対策の内容・実施時期	点検診断	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	点検診断	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検

備 考

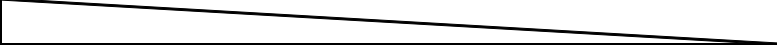
個別施設整理番号	24	林道台帳索引番号番号	50	施設管理者	諫早市
路線名	平田線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	3号橋
施設の所在地	諫早市高来町折山	起点からの距離	3.4km	建設年度	1960
供用年数	66	種別	コンクリート橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	不明	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	8.6m		幅員(車道幅員)	5.1m (5.1m)
	施設の構造等	上部工型式	RCT桁			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	—	落橋防止の有無	有	
		橋台工型式	重力式		基礎形式	不明
	橋脚工型式	—		海岸からの距離	—	
施設の目的利用実態等	林道平田線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。					
施設の状態等の概要	点検診断日	令和7年12月17日				
	調査結果	下面全体にうきが確認され、前回点検と比較して損傷面積に進展が見られた。鉄筋腐食に伴い鉄筋コンクリートの付着性能低下が進行している可能性が高く、耐荷性能の低下が懸念されることから、早期の措置を払うことが望ましい。				
	健全性の診断結果	Ⅲ (早期措置段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。			
	劣化原因	経年劣化による。				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成28年度～				
	内容	林道パトロール時において目視点検を行う。 (当該林道はの終点は行き止まり線形であり、比較的地域住民の進入は少なく、橋梁の機能にも支障は生じていないため、当面の間目視点検による経過観察を行うこととする。)				
	実施予定時期	予防保全の観点から、当面の間は年間を通した林道パトロール時による目視点検を実施する。				
	施設の優先度	高	(優先度の考え方) 診断結果により、優先度は「高」とした。			
	対策費用(概算)	—				
管理方法	管理方法	長寿命化対策として、年間を通した林道パトロール時による目視点検を行う。 また、林道の清掃等維持作業を適切に行う。				

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用 (百万円)										
対策の内容・実施時期	点検診断	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	点検診断	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検

備 考

個別施設整理番号	25	林道台帳索引番号番号	50	施設管理者	諫早市
路線名	平田線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	4号橋
施設の所在地	諫早市高来町折山	起点からの距離	3.6km	建設年度	1960
供用年数	66	種別	コンクリート橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	不明	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	7.5m		幅員(車道幅員)	4.0m (4.0m)
	施設の構造等	上部工型式	RCT桁			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	—	落橋防止の有無	有	
		橋台工型式	重力式		基礎形式	不明
	橋脚工型式	—		海岸からの距離	—	
施設の目的利用実態等	林道平田線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。					
施設の状態等の概要	点検診断日	令和7年12月5日				
	調査結果	主桁の鉄筋露出が広範囲に生じており、今後、耐荷性能の低下が懸念される。また、下部工基礎部では洗掘がさらに進展した場合、橋台の安定性が損なわれる恐れがある。このため、上部工・基礎部については、早期に適切な措置を講じることが望ましい。				
	健全性の診断結果	Ⅲ (早期措置段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講じることが望ましい状態。			
	劣化原因	経年劣化による。				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成28年度～				
	内容	林道パトロール時において目視点検を行う。 (当該林道はの終点は行き止まり線形であり、比較的地域住民の進入は少なく、橋梁の機能にも支障は生じていないため、当面の間目視点検による経過観察を行うこととする。)				
	実施予定時期	予防保全の観点から、当面の間は年間を通した林道パトロール時による目視点検を実施する。				
	施設の優先度	高	(優先度の考え方) 診断結果により、優先度は「高」とした。			
	対策費用(概算)	—				
管理方法	管理方法	長寿命化対策として、年間を通した林道パトロール時による目視点検を行う。 また、林道の清掃等維持作業を適切に行う。				

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用 (百万円)										
対策の内容・実施時期	点検診断	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	点検診断	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検

備 考

個別施設整理番号	26	林道台帳索引番号番号	50	施設管理者	諫早市
路線名	平田線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	5号橋
施設の所在地	諫早市高来町折山	起点からの距離	3.8km	建設年度	1965
供用年数	61	種別	コンクリート橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	不明	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	9.5m		幅員(車道幅員)	4.0m (4.0m)
	施設の構造等	上部工型式	RCT桁			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	—	落橋防止の有無	有	
		橋台工型式	重力式		基礎形式	不明
	橋脚工型式	—		海岸からの距離	—	
施設の目的利用実態等	林道平田線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。					
施設の状態等の概要	点検診断日	令和7年12月17日				
	調査結果	上部工に局所的なうき・剥離・鉄筋露出が確認された。また、橋座部には漏水・滞水が確認され、支承には表面的な腐食が認められた。現時点で道路橋の機能に支障は生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。			
	劣化原因	経年劣化による。				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成28年度～				
	内容	林道パトロール時において目視点検を行う。				
	実施予定時期	予防保全の観点から、当面の間は年間を通した林道パトロール時による目視点検を実施する。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 診断結果により、優先度は「中」とした。			
	対策費用(概算)	—				
管理方法	管理方法	長寿命化対策として、年間を通した林道パトロール時による目視点検を行う。 また、林道の清掃等維持作業を適切に行う。				

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用 (百万円)										
対策の内容・実施時期	点検診断	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	点検診断	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検

備 考

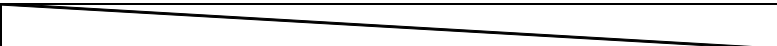
個別施設整理番号	27	林道台帳索引番号番号	52	施設管理者	諫早市
路線名	黒新田線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	宇良山橋
施設の所在地	諫早市高来町黒新田	起点からの距離	1.7km	建設年度	1956
供用年数	70	種別	コンクリート橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	不明	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	20.0m		幅員(車道幅員)	4.9m (4.9m)
	施設の構造等	上部工型式	RCT桁			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	—	落橋防止の有無	有	
		橋台工型式	重力式		基礎形式	不明
	橋脚工型式	壁式		海岸からの距離	—	
施設の目的利用実態等	林道黒新田線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。また、当該林道は生活道としての機能も有しており、地域住民の利用もみられる。					
施設の状態等の概要	点検診断日	令和7年12月2日				
	調査結果	主桁のうき・剥離・鉄筋露出が前回点検よりも僅かに進行が認められる。現時点で道路橋の機能に支障は生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。			
	劣化原因	経年劣化による。				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成28年度～				
	内容	林道パトロール時において目視点検を行う。				
	実施予定時期	予防保全の観点から、当面の間は年間を通した林道パトロール時による目視点検を実施する。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 診断結果により、優先度は「中」とした。			
	対策費用(概算)	—				
管理方法	管理方法	長寿命化対策として、年間を通した林道パトロール時による目視点検を行う。 また、林道の清掃等維持作業を適切に行う。				

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用 (百万円)										
対策の内容・実施時期	点検診断	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	点検診断	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検

備 考

個別施設整理番号	28	林道台帳索引番号番号	52	施設管理者	諫早市
路線名	黒新田線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	雨堤橋
施設の所在地	諫早市高来町善住寺	起点からの距離	3.7km	建設年度	1959
供用年数	67	種別	コンクリート橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	不明	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	7.0m		幅員(車道幅員)	4.4m (4.4m)
	施設の構造等	上部工型式	RCT桁			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	—	落橋防止の有無	有	
		橋台工型式	重力式		基礎形式	不明
	橋脚工型式	—		海岸からの距離	—	
施設の目的利用実態等	林道黒新田線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。また、当該林道は生活道としての機能も有しており、地域住民の利用もみられる。					
施設の状態等の概要	点検診断日	令和7年9月25日				
	調査結果	主桁下面全体のうきを確認することができた。また、床版の広範囲でコンクリートが劣化しており、骨材の露出が生じてる。A1橋台の上流側に洗堀が確認された。予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。			
	劣化原因	経年劣化による。				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成28年度～				
	内容	林道パトロール時において目視点検を行う。				
	実施予定時期	予防保全の観点から、当面の間は年間を通した林道パトロール時による目視点検を実施する。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 診断結果により、優先度は「中」とした。			
	対策費用(概算)	—				
管理方法	管理方法	長寿命化対策として、年間を通した林道パトロール時による目視点検を行う。 また、林道の清掃等維持作業を適切に行う。				

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用 (百万円)										
対策の内容・実施時期	点検診断	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	点検診断	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検

備 考

個別施設整理番号	29	林道台帳索引番号番号	57	施設管理者	諫早市
路線名	炊小屋線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	1号床版橋
施設の所在地	諫早市高来町善住寺	起点からの距離	2.1km	建設年度	1961
供用年数	65	種別	コンクリート橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	不明	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	4.3m		幅員(車道幅員)	4.8m (4.8m)
	施設の構造等	上部工型式	RC中実床版			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	—	落橋防止の有無	有	
		橋台工型式	重力式		基礎形式	不明
	橋脚工型式	—		海岸からの距離	—	
施設の目的利用実態等	林道炊小屋線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。また、当該林道は生活道としての機能も有しており、地域住民の利用もみられる。					
施設の状態等の概要	点検診断日	令和7年9月25日				
	調査結果	上部工(主構)に局所的な剥離・鉄筋露出が確認された。 構造物の機能に支障は生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。			
	劣化原因	経年劣化による。				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成28年度～				
	内容	林道パトロール時において目視点検を行う。				
	実施予定時期	予防保全の観点から、当面の間は年間を通した林道パトロール時による目視点検を実施する。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 診断結果により、優先度は「中」とした。			
	対策費用(概算)	—				
管理方法	管理方法	長寿命化対策として、年間を通した林道パトロール時による目視点検を行う。 また、林道の清掃等維持作業を適切に行う。				

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用 (百万円)										
対策の内容・実施時期	点検診断	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	点検診断	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検

備 考

個別施設整理番号	30	林道台帳索引番号番号	57	施設管理者	諫早市
路線名	炊小屋線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	2号床版橋
施設の所在地	諫早市高来町善住寺	起点からの距離	2.8km	建設年度	1986
供用年数	40	種別	コンクリート橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	S.51	橋格(設計荷重)	T-20	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	5.4m		幅員(車道幅員)	4.8m (4.8m)
	施設の構造等	上部工型式	RC中実床版			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	—	落橋防止の有無	有	
		橋台工型式	重力式		基礎形式	不明
	橋脚工型式	—		海岸からの距離	—	
施設の目的利用実態等	林道炊小屋線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。また、当該林道は生活道としての機能も有しており、地域住民の利用もみられる。					
施設の状態等の概要	点検診断日	令和7年9月25日				
	調査結果	上部工(主構)に局所的な剥離・鉄筋露出が確認された。 構造物の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。			
	劣化原因	経年劣化による。				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成28年度～				
	内容	林道パトロール時において目視点検を行う。				
	実施予定時期	予防保全の観点から、当面の間は年間を通した林道パトロール時による目視点検を実施する。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 診断結果により、優先度は「中」とした。			
	対策費用(概算)	—				
管理方法	長寿命化対策として、年間を通した林道パトロール時による目視点検を行う。 また、林道の清掃等維持作業を適切に行う。					

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用 (百万円)										
対策の内容・実施時期	点検診断	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	点検診断	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検

備 考

個別施設整理番号	31	林道台帳索引番号番号	58	施設管理者	諫早市
路線名	丸尾線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	丸尾1号橋
施設の所在地	諫早市高来町善住寺	起点からの距離	1.0km	建設年度	1965
供用年数	61	種別	コンクリート橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	不明	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	2.7m		幅員(車道幅員)	3.9m (3.9m)
	施設の構造等	上部工型式	RC中実床版			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	—	落橋防止の有無	無	
		橋台工型式	石積		基礎形式	不明
	橋脚工型式	—		海岸からの距離	—	
施設の目的利用実態等	林道丸尾線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。また、当該林道は生活道としての機能も有しており、地域住民の利用もみられる。					
施設の状態等の概要	点検診断日	令和7年9月25日				
	調査結果	上部工(主構)に局所的な剥離・鉄筋露出が確認された。 構造物の機能に支障は生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。			
	劣化原因	経年劣化による。				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成28年度～				
	内容	林道パトロール時において目視点検を行う。				
	実施予定時期	予防保全の観点から、当面の間は年間を通した林道パトロール時による目視点検を実施する。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 診断結果により、優先度は「中」とした。			
	対策費用(概算)	—				
管理方法	長寿命化対策として、年間を通した林道パトロール時による目視点検を行う。 また、林道の清掃等維持作業を適切に行う。					

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用 (百万円)										
対策の内容・実施時期	点検診断	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	点検診断	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検

備 考

個別施設整理番号	32	林道台帳索引番号番号	61	施設管理者	諫早市
路線名	西黒新田線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	西黒新田橋
施設の所在地	諫早市高来町黒新田	起点からの距離	0.6km	建設年度	1978
供用年数	48	種別	コンクリート橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	S51	橋格(設計荷重)	T-20	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	6.1m		幅員(車道幅員)	4.0m (4.0m)
	施設の構造等	上部工型式	RC中実床版			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	—	落橋防止の有無	無	
		橋台工型式	逆T式		基礎形式	不明
	橋脚工型式	—		海岸からの距離	—	
施設の目的利用実態等	林道西黒新田線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。					
施設の状態等の概要	点検診断日	令和7年9月25日				
	調査結果	上部工(主構)に局所的な剥離・鉄筋露出が確認された。 予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。			
	劣化原因	経年劣化による。				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成28年度～				
	内容	林道パトロール時において目視点検を行う。				
	実施予定時期	予防保全の観点から、当面の間は年間を通した林道パトロール時による目視点検を実施する。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 診断結果により、優先度は「中」とした。			
	対策費用(概算)	—				
管理方法	管理方法	長寿命化対策として、年間を通した林道パトロール時による目視点検を行う。 また、林道の清掃等維持作業を適切に行う。				

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用 (百万円)										
対策の内容・実施時期	点検診断	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	点検診断	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検

備 考

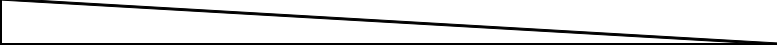
個別施設整理番号	33	林道台帳索引番号番号	63	施設管理者	諫早市
路線名	砥石川線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	1号床版橋
施設の所在地	諫早市高来町平田	起点からの距離	5.7km	建設年度	1995
供用年数	31	種別	コンクリート橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	不明	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	8.2m		幅員(車道幅員)	3.9m (3.9m)
	施設の構造等	上部工型式	RCT桁			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	—	落橋防止の有無	有	
		橋台工型式	重力式		基礎形式	不明
	橋脚工型式	—		海岸からの距離	—	
施設の目的利用実態等	林道砥石川線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。					
施設の状態等の概要	点検診断日	令和7年10月29日				
	調査結果	上部工では、主桁に局所的なうきや剥離・鉄筋露出が確認されたが、現時点では耐荷性能への影響は限定的と判断される。一方で、基礎部の洗堀は進展すると構造物の安定性に影響を及ぼす恐れがあるため、時宜を得た補修対策を実施することが望ましい。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。			
	劣化原因	経年劣化による。				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成28年度～				
	内容	林道パトロール時において目視点検を行う。				
	実施予定時期	予防保全の観点から、当面の間は年間を通した林道パトロール時による目視点検を実施する。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 診断結果により、優先度は「中」とした。			
	対策費用(概算)	—				
管理方法	管理方法	長寿命化対策として、年間を通した林道パトロール時による目視点検を行う。 また、林道の清掃等維持作業を適切に行う。				

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用 (百万円)										
対策の内容・実施時期	点検診断	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	点検診断	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検

備 考

個別施設整理番号	34	林道台帳索引番号番号	63	施設管理者	諫早市
路線名	砥石川線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	2号床版橋
施設の所在地	諫早市高来町平田	起点からの距離	5.9km	建設年度	1962
供用年数	64	種別	コンクリート橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	不明	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	7.5m		幅員(車道幅員)	4.0m (4.0m)
	施設の構造等	上部工型式	RCT桁			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	—	落橋防止の有無	有	
		橋台工型式	重力式		基礎形式	不明
	橋脚工型式	—		海岸からの距離	—	
施設の目的利用実態等	林道砥石川線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。					
施設の状態等の概要	点検診断日	令和7年10月29日				
	調査結果	上部工では、局所的な損傷が確認されたものの、現時点では耐荷性能への影響は限定的と判断される。一方で、A2橋台の変形・欠損は、進展すると構造物の安定性に影響を及ぼす恐れがあるため、時宜を得た補修対策を実施することが望ましい。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。			
	劣化原因	経年劣化による。				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成28年度～				
	内容	林道パトロール時において目視点検を行う。				
	実施予定時期	予防保全の観点から、当面の間は年間を通した林道パトロール時による目視点検を実施する。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 診断結果により、優先度は「中」とした。			
	対策費用(概算)	—				
管理方法	長寿命化対策として、年間を通した林道パトロール時による目視点検を行う。 また、林道の清掃等維持作業を適切に行う。					

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用 (百万円)										
対策の内容・実施時期	点検診断	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	点検診断	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検

備 考

個別施設整理番号	35	林道台帳索引番号番号	66	施設管理者	諫早市
路線名	鳥越線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	深谷橋
施設の所在地	諫早市小長井町川内	起点からの距離	2.2km	建設年度	1968
供用年数	58	種別	コンクリート橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	不明	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	9.9m		幅員(車道幅員)	4.1m (4.1m)
	施設の構造等	上部工型式	RCT桁			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	—	落橋防止の有無	有	
		橋台工型式	逆T式		基礎形式	不明
	橋脚工型式	—		海岸からの距離	—	
施設の目的利用実態等	林道鳥越線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。また、当該林道は生活道としての機能も有しており、地域住民の利用もみられる。					
施設の状態等の概要	点検診断日	令和7年9月26日				
	調査結果	主桁(02)に著しい剥離・鉄筋露出が生じており、鉄筋の断面減少が見られた。 横桁(03)に錆汁を伴う遊離石灰が生じており、内部で鉄筋の腐食が進行していると考えられる。 道路橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。			
	劣化原因	経年劣化による。				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成28年度～				
	内容	林道パトロール時において目視点検を行う。				
	実施予定時期	予防保全の観点から、当面の間は年間を通した林道パトロール時による目視点検を実施する。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 診断結果により、優先度は「中」とした。			
	対策費用(概算)	—				
管理方法	管理方法	長寿命化対策として、年間を通した林道パトロール時による目視点検を行う。 また、林道の清掃等維持作業を適切に行う。				

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用 (百万円)										
対策の内容・実施時期	点検診断	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	点検診断	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検

備 考